

NEWS LETTER

14時30分解禁

令和元年7月 全国百貨店売上高概況

令和元年8月21日

I. 概況

1. 売上高総額	4,971億円余
2. 前年同月比	-2.9% (店舗数調整後/4か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	78社 215店 (令和元年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,392,027㎡ (前年同月比:-2.2%)
5. 総従業員数	66,255人 (前年同月比:-4.5%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 -1.1%、1-3月 -0.9%、2-4月 -0.2%、 3-5月 -0.6%、4-6月 -0.9%、5-7月 -1.6%

[参考] 平成30年7月の売上高増減率は-6.1% (店舗数調整後)

【特徴】

7月の売上高は2.9%減と4か月連続のマイナスとなった。長梅雨による日照不足や低温多雨の影響から盛夏アイテムが不振だったことに加え、日曜日の前年比1日減も響いた。月末の梅雨明け以降、気温の上昇に伴い復調を示したが前年実績には届かなかった。ラグジュアリーブランドや時計を中心とした高額品や免税売上は引き続き好調だった。

顧客別では、インバウンド(シェア5.7%)が3.4%増(281億円)と6か月連続でプラスした。購買客数(3.7%減/2か月連続)は前月より2.3ポイントダウンしたものの、購買単価は7.3%増と高伸した。一方、国内市場(シェア94.3%)は3.2%減となった。

地区別では、10都市のうち、2都市(大阪、広島)で前年をクリアしたが、合計では1.9%減と4か月連続でマイナスした。地方(10都市以外の地区)は5.3%減(27か月連続)と、依然として苦戦が続いている。

商品別では、宝飾・時計など高額品(美術・宝飾・貴金属/8.6%増/6か月連続)と化粧品(0.5%増/52か月連続)が牽引し、雑貨が1.7%増と6か月連続プラス。身のまわり品(2.9%減)は、夏物の婦人靴やアクセサリなどの動きが鈍くマイナスに転じた。主力の衣料品(6.9%減)は、天候と件から季節需要が盛り上がり、特に、軽衣料の動きが鈍かった。食料品(1.9%減)は、菓子(2.3%増/6か月連続)が好調だったものの全体では前年実績には届かなかった。

全国162店舗で展開した『プレミアム サマー バザール』は、自社イベントとの連携などにより集客に寄与した店舗もあり、一定の成果が得られた。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇東・西日本で気温が低くなり、東・西日本太平洋側で降水量がかなり多かった。日照時間は、北・東日本日本海側を除いて全国的に少なく、西日本太平洋側ではかなり少なかった。

(2) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (// -1日/日曜1日減)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数119店舗)

①増加した: 21店、②変化なし: 32店、③減少した: 66店

(5) 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上 (同上/有効回答数82店舗)

①増加した: 6店、②変化なし: 30店、③減少した: 46店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2019年7月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	497,100,192	100.0	-2.9 (-3.1)
10都市	356,198,770	71.7	-1.9
札幌	12,886,687	2.6	-3.2
仙台	6,936,260	1.4	-4.4
東京	136,594,306	27.5	-2.7
横浜	30,057,225	6.0	-3.4
名古屋	31,357,649	6.3	-5.0
京都	20,020,577	4.0	-2.4
大阪	76,414,361	15.4	1.3
神戸	12,035,575	2.4	-3.4
広島	11,097,570	2.2	3.7
福岡	18,798,560	3.8	-0.3
10都市以外の地区	140,901,422	28.3	-5.3 (-6.2)
北海道	1,024,885	0.2	-5.2 (-26.9)
東北	6,510,425	1.3	-6.3
関東	61,302,077	12.3	-5.3
中部	11,371,192	2.3	-5.0
近畿	19,299,810	3.9	-3.6
中国	10,234,796	2.1	-4.2
四国	8,129,998	1.6	-4.9
九州	23,028,239	4.6	-7.3 (-11.0)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	497,100,192	100.0	-2.9 (-3.1)
紳士服・洋品	27,806,908	5.6	-6.9 (-7.2)
婦人服・洋品	87,044,411	17.5	-7.1 (-7.4)
子供服・洋品	8,910,634	1.8	-6.2 (-6.3)
その他衣料品	10,455,776	2.1	-6.0 (-6.1)
衣 料 品	134,217,729	27.0	-6.9 (-7.2)
身のまわり品	65,560,329	13.2	-2.9 (-3.2)
化粧品	44,381,298	8.9	0.5 (0.3)
美術・宝飾・貴金属	33,402,535	6.7	8.6 (8.6)
その他雑貨	16,269,946	3.3	-7.2 (-7.3)
雑 貨	94,053,779	18.9	1.7 (1.6)
家 具	5,631,525	1.1	2.8 (2.7)
家 電	1,169,706	0.2	18.3 (18.3)
その他家庭用品	13,176,468	2.7	-5.0 (-6.3)
家 庭 用 品	19,977,699	4.0	-1.8 (-2.7)
生 鮮 食 品	28,978,033	5.8	-3.5 (-3.9)
菓 子	40,479,706	8.1	2.3 (2.2)
惣 菜	30,521,828	6.1	-0.7 (-0.9)
その他食料品	55,320,170	11.1	-4.6 (-4.8)
食 料 品	155,299,737	31.2	-1.9 (-2.1)
食 堂 喫 茶	13,229,927	2.7	-6.2 (-6.3)
サ ー ビ ス	4,705,918	0.9	-1.8 (-1.9)
そ の 他	10,055,074	2.0	-1.1 (-1.3)
商 品 券	16,903,858	3.4	-6.1 (-6.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －1.9%（店舗数調整後／4か月連続マイナス） |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －5.3%（店舗数調整後／27か月連続マイナス） |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－1.9	－1.3	4か月連続マイナス
札幌	－3.2	－0.1	2か月連続マイナス
仙台	－4.4	－0.1	2か月連続マイナス
東京	－2.7	－0.7	4か月連続マイナス
横浜	－3.4	－0.2	2か月連続マイナス
名古屋	－5.0	－0.3	6か月ぶりマイナス
京都	－2.4	－0.1	2か月ぶりマイナス
大阪	1.3	0.2	6か月連続プラス
神戸	－3.4	－0.1	9か月連続マイナス
広島	3.7	0.1	3か月連続プラス
福岡	－0.3	－0.0	5か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	－5.3	－1.6	27か月連続マイナス
北海道	－5.2	－0.0	3か月ぶりマイナス*
東北	－6.3	－0.1	5か月連続マイナス*
関東	－5.3	－0.7	13か月連続マイナス
中部	－5.0	－0.1	13か月連続マイナス
近畿	－3.6	－0.1	2か月ぶりマイナス
中国	－4.2	－0.1	16か月連続マイナス*
四国	－4.9	－0.1	2か月ぶりマイナス
九州	－7.3	－0.4	5か月連続マイナス*

（注）北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。（2005年までは6大都市）

NEWS LETTER

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が6か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が43か月連続、衣料品が13か月連続、食料品が3か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が52か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子が6か月連続、家電が2か月連続、家具が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.9	—	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	-6.9	-0.4	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-7.1	-1.3	5か月連続マイナス
子供服・洋品	-6.2	-0.1	13か月連続マイナス
その他衣料品	-6.0	-0.1	45か月連続マイナス
衣料品	-6.9	-1.9	13か月連続マイナス
身のまわり品	-2.9	-0.4	2か月ぶりマイナス
化粧品	0.5	0.0	52か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	8.6	0.5	6か月連続プラス*
その他雑貨	-7.2	-0.2	7か月連続マイナス*
雑貨	1.7	0.3	6か月連続プラス
家具	2.8	0.0	3か月ぶりプラス
家電	18.3	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	-5.0	-0.1	40か月連続マイナス
家庭用品	-1.8	-0.1	43か月連続マイナス
生鮮食品	-3.5	-0.2	9か月連続マイナス*
菓子	2.3	0.2	6か月連続プラス*
惣菜	-0.7	-0.0	4か月ぶりマイナス*
その他食料品	-4.6	-0.5	4か月連続マイナス*
食料品	-1.9	-0.6	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-6.2	-0.2	27か月連続マイナス
サービス	-1.8	-0.0	3か月ぶりマイナス
その他	-1.1	-0.0	4か月連続マイナス
商品券	-6.1	-0.2	101か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

令和元年 7 月 東京地区百貨店売上高概況

令和元年 8 月 2 1 日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,365 億円余
2. 前年同月比	－2.7% (4 か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭－3.3%(90.7%)：非店頭4.4%(9.3%) () 内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13 社 25 店 (令和元年 6 月対比±0 店)
5. 総店舗面積	835,418㎡ (前年同月比：－0.7%)
6. 総従業員数	17,214 人 (前年同月比：－4.5%)
7. 3 か月移動平均値	12-2 月 －1.5%、1-3 月 －1.0%、2-4 月 －0.2%、 3-5 月 －0.6%、4-6 月 －1.2%、5-7 月 －1.9%

[参考] 平成 30 年 7 月の売上高増減率は－4.5%

【特 徴】

- (1) 7 月の東京地区は、入店客数 (3.8%減/2 か月連続)、売上高 (2.7%減/4 か月連続) とともにマイナスした。各社が企画したファミリーイベントや各種施策が好評で集客効果のあった店舗も見られたが、梅雨明けが昨年より約 1 か月遅れたことによる低温と記録的な日照不足の影響を大きく受け、主力の夏物衣料や UV 関連アイテムの動きが低調だった。
- (2) インバウンドと高額商材は引き続き増勢で、高級時計などが好調だった美術・宝飾・貴金属 (13.1%増/6 か月連続) が二桁伸びと高伸し、雑貨トータル (2.3%増) でも 6 か月連続プラスとなった。化粧品 (0.1%減) は、品薄感から 2 か月連続マイナスとなったものの、前月より 4.3 ポイント回復し、前年並みまで戻している。
- (3) 食料品 (0.1%増) は、惣菜と、自家需要・手土産需要ともに好調だった菓子が牽引し、3 か月ぶりにプラス転換した。一方、生鮮食品はマイナスが続いている。
- (4) 衣料品 (8.7%減) は、天候与件から半袖ワイシャツ、カットソー、ブラウスなど軽衣料の動きが鈍かったが、ジャケット、ブルゾンや、トレンド感のあるスカートなどには動きが見られた。また、子供服・洋品はベビー用品が堅調で 10 か月ぶりにプラスに転じた。
- (5) 今夏 2 回目となる『プレミアム サマー バザール』は、下旬の気温上昇も相俟って、期間中の客数・売上とも前年を超えた店舗が多く見られた。中元商戦は、店頭受注の減少を WEB 受注でカバーする構図でほぼ前年並みに推移した。
- (6) 8 月中間段階の商況は、1.0%増 (8/15) で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0 日 (前年同月比 ±0.0 日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数 18 店舗)
①増加した：4 店、②変化なし：4 店、③減少した：10 店
- (3) 7 月歳時記 (クリアランス、夏休み) の売上 (同上/有効回答数 13 店舗)
①増加した：0 店、②変化なし：4 店、③減少した：9 店

NEWS LETTER

東京地区百貨店 売上高速報 2019年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	136,594,306	100.0	-2.7
紳士服・洋品	9,670,570	7.1	-5.2
婦人服・洋品	21,482,395	15.7	-11.4
子供服・洋品	2,284,813	1.7	0.6
その他衣料品	2,505,715	1.8	-5.6
衣 料 品	35,943,493	26.3	-8.7
身のまわり品	19,507,127	14.3	-3.6
化粧品	13,646,737	10.0	-0.1
美術・宝飾・貴金属	10,398,983	7.6	13.1
その他雑貨	5,444,451	4.0	-8.8
雑 貨	29,490,171	21.6	2.3
家 具	1,879,706	1.4	22.8
家 電	830,550	0.6	26.6
その他家庭用品	3,215,166	2.4	-6.9
家 庭 用 品	5,925,422	4.3	5.0
生 鮮 食 品	5,366,309	3.9	-2.9
菓 子	10,505,246	7.7	3.4
惣 菜	7,404,742	5.4	0.8
その他食料品	13,972,336	10.2	-1.6
食 料 品	37,248,633	27.3	0.1
食 堂 喫 茶	3,008,241	2.2	-11.0
サ ー ビ ス	1,937,582	1.4	-1.6
そ の 他	3,533,637	2.6	-4.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	3,565,748 千円	-3.3
従 業 員 数	17,214 人	-4.5
店 舗 面 積	835,418 m ²	-0.7

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が6か月連続、食料品が3か月ぶり、家庭用品が11か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が9か月連続、身のまわり品が4か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、菓子が11か月連続、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、惣菜が5か月連続、家電が2か月連続、家具が2か月ぶり、子供服・洋品が10か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.7	—	4か月連続マイナス
紳士服・洋品	-5.2	-0.4	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-11.4	-2.0	5か月連続マイナス
子供服・洋品	0.6	0.0	10か月ぶりプラス
その他衣料品	-5.6	-0.1	5か月連続マイナス
衣料品	-8.7	-2.4	9か月連続マイナス
身のまわり品	-3.6	-0.5	4か月連続マイナス
化粧品	-0.1	-0.0	2か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	13.1	0.9	6か月連続プラス*
その他雑貨	-8.8	-0.4	6か月連続マイナス*
雑貨	2.3	0.5	6か月連続プラス
家具	22.8	0.2	2か月ぶりプラス
家電	26.6	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	-6.9	-0.2	13か月連続マイナス
家庭用品	5.0	0.2	11か月ぶりプラス
生鮮食品	-2.9	-0.1	10か月連続マイナス*
菓子	3.4	0.2	11か月連続プラス*
惣菜	0.8	0.0	5か月連続プラス*
その他食料品	-1.6	-0.2	2か月連続マイナス*
食料品	0.1	0.0	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	-11.0	-0.3	11か月連続マイナス
サービス	-1.6	-0.0	2か月連続マイナス
その他	-4.0	-0.1	2か月ぶりマイナス
商品券	-3.3	-0.1	10か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>